

選択の力



晴れ団体

目次

前書き・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

晴れ団体のレポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

* 「日本人だということ」 スズキ・アキノリ・・・・・・・・・・ 4

* 「日本は人生で重要な部分」 ムクタシッド・サフィア・ 1 1

* 『漫画から日本語まで』 シス・コランティーン・・・・・・・・ 1 7

* 『生活を変えた熱中』 ドラネ・ダヴィッド・・・・・・・・・・ 2 8

「選択の力」 後書き・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 4

前書き

晴れ団体の名前を決めた日はリールで天気の良い日でした。グループのメンバーはフランスから、ベルギーからそして日本から来ましたので国が違うのですから天気も違います。だから早稲田プロジェクトで共通天気を共有することに決めました！リール3大学の四人は日本語の勉強のおかげでポジティブに生きて行くのです（人生の目的、学ぶ楽しさ、趣味、、、）それでポジティブ感情といえば晴れ！

日本への道を歩いて、晴れ団体メンバーのアイデンティティや将来が変わっていて、この道を選択したから「選択の力」の強いタイトルをみんなで選びました。職業とか個人的な味とか偶然なのだろうと考えてしまう。概して、日本語学の道は偶然か自覚的な選択か、どっちを推した方が良かったと思うようになりました。

「日本人だということ」

鈴木・暁徳

動機文

なぜこのテーマを決めましたかと聞いたら、まず自己紹介しなければならないと思ういます。

私はスズキ・アキノリと申します。ハーフ日本人とハーフフランス人です。父は日本人で、母はフランス人です。でも、私はアメリカから来ました。子供の時からハーフ日本人の友達と育ちゆきました。でも、彼たちは、たいていお母さんが日本人です。だから、たいていの友達は子供の時から日本語が分かって、話せます。でも、「たいてい」と言います。何人の友達はお父さんが日本人からです。それから、彼たちも日本語を学ばなかったから、話すと分かる事ができません。ハーフ日本人の家族ではお母さんが日本人場合に、子供は母国語をできますが、お父さんが日本人の場合は子供は日本語をできませんから、ちょっと面白いだと思っいます。これでは、よく「母国語」という表現が分かりました。さいさい日本語できる友達を羨みました。その時から最近まで、その自分のアジア側を生えりたいでした。これは自分の中で事欠きたと思っいます。両親は二つ文教があっても、一つだけは自分の中で生えていたと感じました。

なぜ「生える」という言葉を使いますか。植物のようだからです。植物はこのアジア側と同じ意味があります。植物のようにアジア側を生えらなければなりません。ドラマや音楽やファッションは土壌や鉢のようにですが、大切な事が水や日のように不足しました。日本語や日本家族など関係するのはこの不足でした。もし、この植物は水や日になったら、ブロックされます。私は同じように感じました。

高校に入る時に、自分だけでこのアジア側を生えて決めました。それから、ドラマをみたり、韓国と日本のファッションを倣いました。でも、ある事では私は驚きました。ハーフ日本人友達は日本と関係するのは全然したいではありません。私は彼たちの出方を分かる事ができませんでしたが、彼たちも私の出方を分かりませんでした。しかし、二年ぐらい後でメディア通じて日本と感じがますます無くなりました

。日本語できなかつたからでした。日本人なるために国語でかかなければならぬと思ひ知りました。それと、日本家族と関係をしたいでしたから、日本語学のために一番やる気をなりました。本当言葉を話せることができたんです。

でも、ある日は、友達が日本から帰た時に、私に「日本行った時に、日本人は私を外国人のように見なしました。」と言いました。ちょっとおかしいと考えました。彼は、日本語がちゃんとできて、顔は日本人のようなのに、「何だか」と聞きました。私はアメリカから来たとしても、ここに、フランスでは顔が外国人のようにだとしても、人々は私にフランス語で話します。私は英語でぜったい話しません。まあ、もちろん国語がよくできます。でも日本に比べてフランスでは元始と国籍は異なりますが、日本ではそうではないようです。例えば、もしフル日本人いったら、フランスに来る時に、フランス国民にフランス人のように見られたいなれば国語を話さなければなりません。でも、もちろんフランスではいろいろな民族がありますから、元始と国籍はちょっと異なります。でも、もしアルジェリア人はフランスに来る時に、フランス語を話せて、フランス国民にフランス国籍のように見られますが、元始はアルジェリア人だけ見られます。でも、フランス人は彼にフランス語で話します。

問題は日本と関係することではありません。日本と関係するのはちょっと簡単だと思ういます。関係するのは回数によって違うと思ひます。例えば、日本語でドラマを見たり、日本語の音楽を聞いたり、アニメを見たり。私はそんな事を毎日できますので、いつも関係します。でも、それより関係するのが難しいものがあると思ひます。例えば、日本に行ったり、日本語で話したり、日本人の友人を作ったり、日本で住んでみたりでしょうね。。

それから、日本人に日本人のように思われるためにどうしようか考えています。それと、日本人は何で私を見る時に「あ！外人だよ」と言えますか。言えませんか？まあそんな考える事があります。テーマ「日本人だということ」を決めたからです。

対話報告

始めに、対話の相手決めるのは説明します。その対話には二人の人と話し合いました。相手はローランとファリッドです。友達です。実は、ローランは私の状況が全く同じです。彼もハーフ日本人ですが、私とは逆に、お母さんが日本人で、お父さんはフランス人です。ファリッドは、日本と何も関係があるけど、アジア文化が大好きです。ドラマやファッションが好きです。そして、私たちはたくさんハーフ日本人友達がありますから、彼は日本とそんな関係がだけあります。対話の中では、いくつかのなまえがあります。私たちの名前以外に皆はハーフ日本人です。それと、話し合っているテーマは「日本人だということ」ですが、私たちには、「ハーフ日本人」というケースのです。テーマ動機の中では、ある質問に答えて見たいです。しかし、それは対話です。だから、時々質問を言ったのに、答えません。答えない質問は主にはハーフ日本人で「日本人だということのはどういう意味ですか」です。

「アキノリ＝はい、ええと、最近、早稲田大学の人とプロジェクトを始めました。それと、対話レポートをしなければなりません。自由なテーマをもう選びました。私の決めたテーマは「日本人だということ」。

ローラン＝「日本人だということ」ですね。。。

アキノリ＝ある日は、ハーフ日本人とハーフフランス人友日本家族から帰た時に、私に「日本行った時に、日本人は私を外国人のように見なしました。」と言いました。ちょっとおかしいと考えました。彼は、日本語がちゃんとできて、顔は日本人のようですので、「何か」と思いました。私はアメリカから来たとしても、ここに、フランスでは顔が外国人のようにだとしても、人々は私にフランス語で話します。私に英語ではぜったいに話しません。それから、私の問題は「ハーフ日本人で、日本人のように見られるためにはどうしよう」と考えます。

ローラン＝あなたは「何をしなければなりませんか」と言いたいですか。「あなたは日本人のように見れるのようになるため」と意味していますか？でも、日本人のように見れたいですか。

アキノリ＝じゃ、例えば、もしアルジェリア人はフランスに来る時に、フランス語を話せて、フランス国民にフランス国籍のように見られりますが、元始はアルジェリア人だけ見られています。でも、フランス人は彼にフランス語で話します。

ローラン＝まじですか？

アキノリ＝それと、日本語がちゃんとできる友達は、日本へ行った時に、日本語を話せても、人は彼らと英語を使いました。

ローラン=でも、普通日本人は英語を話せませんね。

アキノリ=いいえ。

ローラン=だから、日本語を使います！

アキノリ=いいえ、英語ですが、たいていは強いアクセントがあります。だから、時々理解のために、日本語はより良いです。

でも、質問には、ハーフフランス人 | ハーフ日本人のは日本に住んでいて、フランス来る時に、「えええ外人だよ！！」と言われません。そして、日本ではちょっと閉鎖的な考え方があるようです。あなたは、ハーフ日本人なので、そんなことはどう思いますか？それと、例えば、クニエさんを知っていますね？彼女は「日本人とフランス人とのどれより感じますか」と言われたら、「フランス人」と言います。

ローラン=まじですか？

アキノリ=はい、そうですよ。彼女は「ハーフ日本人 | フランス人です」と言いますが、フランス人を望みます。

ローラン=ハーフ人はたいてい二つ文化を保つと思います。クニエさんは日本へもう行きましたね。

アキノリ=はい、そうです。でも、それは彼女は日本人になりたいことを意味しないようです。

ローラン=とにかく、ハーフですので、フランス人ではないで、日本人でもないと思います。

ファリッド=私は、両親によって違うと思います。例えば、クニエさんの家族ではお父さんが日本人ですが、たくさん話しませんので、彼がいない時は、家で日本側がないようです。クニエさんは日本人のように感じないからです。でも、彼女の家族に比べて、ドミニクさんの家族で母が日本人でも、強い性格があるので、家で強い日本情調があります。

アキノリ=そうですけど、ナオミは（クニエの妹）ドラマをたくさん見ませんでしたか？

ファリッド=そうでしたが、それは先立ちでしたが、今はぜんぜん見なようです。

アキノリ=エエー、本当にですか？インターネットで依然として衣服を買いますね。

ファリッド=先立ちもしました。。。カッコいいからでしたが、日本と関係することではありませんでした。日本人だということには満足しますが、以前のうようにはありません。今、フランス側が好みます。Tiffanieも先立ちに日本が好きでしたが、今、彼女のスペイン側が好みます。お母さん（日本人）もフランス社会の中に入り混じりたいです。

ローラン=マアー、彼女たちのファッションでそれを見えます。

ファリッド=ちょっと、スタイルとか漫画を読むとか上方が考え方を醸し出すことだと思いません。

ローラン=例えば、フランスポールは静かで、敬意を表して、慎ましやかです。でも、特別な上方がありません。。。

アキノリ=そうですね。。。じゃ文教についてですか？

ファリッド=性格についてだと思えます。

アキノリ=もしかして、両親との関係は何かを変化をしますか？なぜならいくつかの知ったハーフ日本人家族では日本人片親が子供と関係はちょっとよくないからです。

ファリッド=そうだからかもしれません。

ローラン=エー。。。実は、私たちはあなたの質問に答えましたか？

アキノリ=マア。。。いいですよ。自然にでなければなりません。

ファリッド=でも、日本人のように思われるには両親が二つとも日本人でなければならぬで、日本で生まれなければならないと思います。こんな人がいい思われるだと思えます。

ローラン=マア、私はアクセントもによってだと思えます。アクセントがあなたの元始を意味しますので、もし、いい発音あったら、問題がないかもしれないと考えています。

ファリッド=ちょっと間違いだと考えています。日本国籍と日本人両親なら解答だと思えます。例えば、カランはお母さんが日本人で、子供時には、日本で住んでいて、学校に行く時は他の子供は彼女を見ると「外人」と言っていました。だから、日本人のように思われるには両親が日本人でなければなりません。それと、いい発音を得るためには日本で住んでいなければなりません。

ローラン=日本で外人が少しありますから、外人は日本へ来る時に、日本人はちょっとびっくりします。フランスのように。。。もし、フランスでは白いフランス人だけがあったら、中国人は来れば、皆びっくりするようです。同じです。

アキノリ=そうですね。。。。

ファリッド=とにかく、世界ではこんなことがどこでもあります。

アキノリ=いいえ、フランスでは違いますよ。

ファリッド=ちょっと。。。私の家族は3つ世代からここに住んでいますが、外国へ行って来る時には外人のように思われます。

アキノリ=マア、ちょっと違うと思えます。フランスに比べて日本では「外人」という言葉はちょっと違うと感じています。

ファリッド=マア、それがまだ分かりません。

ローラン=私は日本の「考え方」ということはたいてい他人と日本人がたくさん喋りません。何もについて日本人と話せないと思います、始めに。でも、日本人と関係が良くなれば、何でも話せて、本当に睦み合えます。

ファリッド=韓国では同じです。人はたいてい少数の友達があるけど、友達だ時に、とても自由です。

ローラン=けれども、韓国人は日本人より開けた考える方があるようです。

アキノリ=はい、私もそう思いますよ。

ファリッド=でも、今まで日本ではたくさんあるようだと信じています。」

結論

それでいろいろな解答があるようになりました。日本でハーフの日本人を見られる方から（日本語をよく話せて）「何の理由ですか？」という質問で「どうしなければなりませんか？」という質問までについて話し合いました。世界のハーフ日本人をもちろん知っていませんのに、知るの方の状況がたいてい同じようです。彼らの状況を解析して、お母さんが優しい日本人だっても、日本と関係するのはちょっと難しそうです。いろいろな場合を知っていますからです。こうして、ちょっと面白いだと思います。意味は日本は特別な場合ようだからかもしれないと思います。

それで、ファリッドの言ったことについて同意しています。私も日本人のように見られるのために両親は両方が日本人でなければならないと思います。なぜなら、日本人親があって、日本語がよくできるのに、外国人のように思われます。私もそう思いますが、ローランの言ったことを聞いて、驚きました。日本人とお互いに近づく時に、しだいに、彼らはより話します。そして、友達になって、日本人のように思われてできます。それは、とても面白いです。それにオーストリア人について思わせます。オーストリア人が初めての会うことがとても冷たいですが、話すの後では、より優しいになって、お互いに近付けます。

それで、「日本人だということ」テーマは人種の混合するについて、ハーフ人の身元の問題が起きます。ますます皆はグローバル化の世界で住んでいて、文化はお互いに混合されています。しだいに、人種の間、国の間、壁が落下しています。私は近代社会では人種の混合が進歩だと思います。ハーフ家族が世界に比べて一足先にだと思えます。そんな家族は人の同じ元始ことが分かりました。こうして、国籍よりことがあります。言うことができれば、「世界籍」があると思えます。それから、もし日本人のように感じれなったら、日本人のせいではないと考えます。なぜフランスではフランス人のように思われますか？昔歴史の中では、フランスはたくさん国を植民地化しましたから、色々な国の人フランスに住んで来ました。しかし、日本では閉じたシステムでしたから、ヨーロッパでは日本より外国人がいました。だから、今私によるとそのことについて日本はちょっと遅れる国だと思えます。まだ「国籍」のレベルで支えています、しだいに、「世界籍」になっています。

終りに

考えるための日本語というプロジェクトが凄いチャンスでした。初めに、私の日本語がよくないですので、できないと信じていました。でも、「たぶん、そのおかげで、レベルをより良いになれる」と思いました。やはり正解でした。その8週間の中に日本語でいつも書いて、考えて見て、やり取りをして、本当に有益でした。大学では、日本語のいい状況がないと思います。いつも、いつも日本語を使わないでいませんからです。もちろん、これは色々な理由があります。

そして、早稲田大学のメンタの忍耐は本当に感謝したいです。私は、さいさい遅れて書いたのに、メンタはいつも支援していました。それで、大変でしたから、謝りたいです。

それと、「日本人だということ」のテーマについてよく考えることがありましたので、自分の元始についても考えました。例えば、「日本と関係するの理由が本当に何ですか」とか「両方国籍を選べますか」とか「どちらか私により適していますか」という質問が自分に聞きました。もちろん、日常生活ではそんな質問に心配していませんが、このプロジェクトでそんな質問について時間がよりかけられました。

それで、このチャンスは本当にありがとうございました。

「日本と私」

「日本は人生で重要な部分」

ムクタシッド・サフィア

動機文

私はフランス人の母とモロッコ人の父で育った子供でしたからその時にほとんど毎年夏休みにモロッコへ行ったことがありました。

モロッコでの滞在のおかげで他の言語を練習して、他の環境に慣れていることができました。小さい頃に毎年モロッコへいくのは楽しかったんですけどその時に「また別の環境に慣れ出来るでしょうー」とよく考えた。

アジアの文化は特異なのだと分かりましたが最初に日本と中国の違いはあまり分からなかったのも、次第に、その国の特異点を調べるのが好きだったことです。

もう小さいの時にモロッコ語と英語を勉強していたのに、友達と人工言語を考案することが多いでしたけれども友達とは特に書き込みを考案することであっても私は不思議に完全な人工言語を遂げることが一番大切にしたいことでした。よちよち歩きや幼児の双子の言語会話は大人に理解出来ないのだと言われていて、私の両親によるとサフィアの双子の姉と、そういう会話がありました。今考えるとたぶんそれは外国語を好きになった理由だと思う。

ティーンエイジャーだったの頃に、絵を描くことが大好きで、ゲーム全然好きじゃなかったのに日本製の「ファイナルファンタジーX」のゲームを発見し、このゲームの画像を好きになった。

だから私の描き方も美的センスも感化されて始めました。それから近代日本の美的感覚に気に入り、この美的感覚が好きじゃない日なんてなかったみたいな感じでした。そういう意味で、それはずーっと好きだった美的センスみたいなーと感じました。そんな思いでを何言語で説明するのは難しそうです。

後で色々なことに感心しましたー>ファッションとかプリクラとか（プリクラについて「ええーなぜフランスではこんなに面白い写真ブースないの?! やっぱ日本ってすごい」と叫んだことがある）そして日本のパッケージデザインにも気に入った。

何から何まできちんとしたパッケージができるからです。

日本の伝統文化で美意識は確かに重要なことですけれども、最初に近代以前の日本の美意識をあまり知らなかったです。私の場合、わずか数年後で日本の伝統文化の興味を持ち始めました。

あの時にまだ日本に行ったことがまだなかったので、なぜか日本の美しさに敏感になるかと考えてみました：たぶん私はイスラム美術（アラブ・イスラムの美術ということ）が好きだから関係があるかもしれない⇒たしかに日本美意識はアラブ世界美意識と同じ日常生活と精神の不可分の一部だと思っています。

変な私・・・とってしまいました。考えすぎかも知れませんが、日本人と血縁関係がない日本が好きな人は日本に興味を持っている理由についてよく質問を受けます。

時にはそんな質問を受けるといろんな思いが出てきているのに言葉にできない。

最悪の質問は「モロッコ人のハーフ（父）だからどうして大学でアラビア語勉強したくないんですか?」とか「英語を勉強するのが一番いいと思わないんですか?」でした。

こんな質問に注意を払うのは必要ではないと信じてた、私が疑ってしまう自分が嫌だから。でも時間とともに自分の選択肢を主張することが出来ました。私自身であるはずだからね。

対話報告

選んだ相手は日本ホストファミリーのお父さんです。2011冬休みから2012年1月7日まで初めて日本旅行をして日本語の勉強を選んだ理由が深く分かってきた。日本語の勉強を始めた時まだ日本へ行くことがなかったので「正しい道でしょう」と、よく自問しました。日本語勉強するということにもっともっとやる気が出てくるのは日本旅行のおかげです。その旅行の重要部分はホストファミリーとの出会いだっただけです。こんなに遠くまで行くのが初めてなので出発前に「時々不安になってくるはずだ」と思ってたけれどもホストファミリーの優しさとお手伝いのおかげで不安な気持ちがなかったです。

ホストのお父さん(鈴木秀夫さん)は英語ができますが私に日本語を教えるために両方の言語使って日本語を教えてあげて、感謝しました。私にとって日本語で話すことが難しかったのがっかりしてヤル気ともっと上手になりたいという気持ちがあふれてきました。

日本のお父さんは外国だけ好きではなくて日本のことが好きで日本の文化を伝えて、世界に心を開くことができる人だと思いました。やはり私は世界に開かれた日本の時代に生まれて良かった！

サフィア: 鈴木さん、どうしてホストになりましたか？いつからこの文化的な冒険に乗り出したのか？

ホスト: 質問にお答えしますと、話が長くなってしまいそうですが、子供の頃から外国人が好きでした。それが大人になって、金髪の女性と結婚したくらいになりました。そして、19歳の時にはアメリカへ、24歳のときはヨーロッパへ行くきっかけになったと思います。その後英語をつかって東京で働くことができました。結婚して、子供が大きくなって中学生のとき、ボランティアとして、NZに子供を引率して10日間行ってきました。

それらのことが、今やっているホームステイに結びついたので、と思います。最初のゲストは2001年秋のことで、NZ から来た13歳の少年でした。

サフィア: そうなんですか。子供の頃から外国人が好きでしたね。アメリカへ行く前に西洋の文化はもう分かりましたか？新しい環境に慣れてむずかしくなかったでしょう。

ホスト: アメリカに行ったのは、実は家で鶏を飼っていたときで、しかもその鶏の原種がアメリカの物だったんです。

サフィア: 今日本でホストとして外国人歓迎して、英語も日本語もできるからホームステイ客やホストの両方を豊かにしていると思いますか？

ホスト: ホームステイ受け入れに、私が英語をしゃべるので、ホストとして大いに役立っています。もし家族のみんなが、英語をしゃべれなかったら、きっとホストファミリーをやってなかったでしょう。

サフィア: 鈴木さんはフランスの画家の名前から採って子供に名付けたのは珍しくて感動（私はすぐに感動するタイプですね）。お娘さんに海外への興味を伝え合ったこともあるし、「日本人しかないではなくて“世界市民”である」というアイデンティティの概念について考えたことがあるかもしれません。

ホスト: 私の世界観は、世界中の人々がもっと自由に、パスポートもなしに、それぞれの国に行ったり来たりできる世の中になったら、絶対いいと思う考えです。

息子にモネと命名したのは、実は私の名前が、とてもありふれていて、嫌いでしたので（同姓同名が結構いたので）、特別な、日本人としては奇抜な名前をつけてあげたんです。本人は、その名前を気に入っているかどうかは、私には今のところわかりません。でも、モネがフランスの画家であることは大体の人が知っていますね。だれかが、私が絵をすきなのでその名前をつけたんですか、と聞いてきますが、私は冗談にもね まね（モネ、マネ 二人とも画家）ですよ、ととぼけるんですが、マネのことは知らないようです。

娘（春菜）は、小さいときから中学生になるまで、よく飛行機に乗せて、海外旅行に連れて行きましたね。それで、きっと外国に興味のほかの人よりあるんじゃないですか。「蛙の子は蛙」と言うことわざがあるように、きっと私に似たんでしょうかね？

サフィア: なるほどね、やはり「蛙の子は蛙」だなあー

私と同じ、日本に行ったことのない画家クロード・モネは 日本を好きになってきた。そしてこの人は11月14日生まれ、私と同じ誕生日なんて…運命感じた。鈴木さん、体験談のことを教えていただきありがとうございました！

結論

早稲田プロジェクトのおかげで自分の日本語能力レベルにプラス効果がありましたと信じています。日本語能力の弱さのせいでこのプロジェクトで困難に陥ると分かりましたが日本語学生としてその困難に打ち勝ちにいかないといけないと思いました。

テキスト沢山読んで、文字に目がもっと慣れてきました。その上早稲田メンターの皆さんからの面白いコメントをいただくとやる気と自信が育ちました。

レポートを書き込むためにそんなに正しい日本語は必要ではなかったので圧力をかけられていませんでした。それでいくら下手でも最初から最後まであきらめないって約束したんだ。

早稲田プロジェクトのおかげで新しい学習法が発覚して非常に強い効果を発揮してしまったと思います：6年もの勉強のように多くのことを学んだという感じがしています。

日本語能力および思いを文章にすること…自分のレポート原稿はちょっと短いけれども怠慢ではありません！日本語入力が遅いせいです。まだまだ下手なのに、恥ずかしがる必要はないと思っていて日本語がまだ下手な私は早稲田プロジェクトに参加したことを後悔していない。世界中の人と交流活動することはすごいなので最大限の努力をすればあとで後悔しないからね。

初めに対話報告はちょっと難しくなってきた…しかし相手のご善意や好意のおかげで打開策を見つけることができました。楽しくなりました！「私の世界観は、世界中の人々がもっと自由に、パスポートもなしに、それぞれの国に行ったり来たりできる世の中になったら、絶対いいと思う考えです」の回答とても気に入った。こんなにいい考えあったらパスポートもなしに世界市民であるはずだ。この回答世界に心を開くことができる人だったことの傍証となりました。

終りに

不器用なレポートでも満足いく仕上がりになりました。日本に近づけると（日本旅行したり、早稲田プロジェクトに参加したりするなど）日本は自分のパスであるという考えの奇妙さを感じていることが少なくなりました。

最近「早稲田大学に留学すればいいんじゃない」と思うことが多いのですが入学できることを確約できなくても手続きにトライしてみたくなくなっちゃいました。

特別に早稲田大学日本語教育実践研究（Center for Japanese Language、CJL）。

嚙私は早稲田プロジェクトのプラス効果に動かされて、それを志望することに決めた。

日本のことを考えずに時間がほとんどない。

「考えるための日本語」作品集の経験を一生大切にしたい！

「漫画から日本語まで」

シス・コランティーン

動機文

私はなぜこのテーマを選んだのか？実にいろいろな理由があるのである。テーマを決めるために、簡単な質問からにした：「私はなぜ日本語を勉強しているのか？」。高校のときに、元には、日本語を勉強する予定がなかった。もちろん、ドイツ語も英語も学んでいて、外国語に興味があったのである。しかし、これほど、好きなのは漫画を読んだり書いたりすることであった。

中学校の頃に兄ちゃんに「ドラゴンボール」を貸してもらった。それははじめて読んだ漫画である。この前に、フランスの有名な漫画を読んでいたが、この「ドラゴンボール」の一卷とはぜんぜん違う気がした。私にとっては漫画の絵は表現力がとても高いし、気持ちを伝える可能性を持っている。後で、話もすばらしいと思った。日本の漫画は日本人の漫画家に描かれているので、ちょっと日本の文化を映すと感じた。それは特に少女漫画の場合である。フランスの漫画に比べて、話には実際の目的があるので、ページの量が多くても、とても面白いと思う。もちろんすべての漫画はそんなによくはないが、有名な漫画を読むと、絵の美しさに感動している。

この時から、いろいろな漫画を読みかけた。でも読書ほど子供の頃から絵に熱中していた。毎日絵を描いていた。それで、漫画の影響を受けて、描き方がだんだん変わった。大好きな漫画をまねして、漫画っぽいキャラを描きかけた。そしてコンテストに出て、時々商品でももらえるようになった。同時に、漫画を読みながら、少しずつ日本の文化や生活についての興味が増えてきた。日本についての記事や雑誌を読みかけた。しかし、そのときでも、日本語がぜんぜん話せななかつた。

それで、高校の三年生のときに、「卒業した後で何をするの？」や「将来に何の仕事がほしい？」という話が急に出てきた。私には「絵と関係がある仕事がいいな」と思っていた。このわけで、美術学校の入学試験を受けてみた。しかし考えれば考えるほど、やっぱり漫画しか描けない。ともかく漫画しか描きたくない。さてこうい学校では漫画の絵の勉強ではなくて、彫刻、絵画、建築のことなどであった・・・

もう6月で、いよいよ夏休みであった。結局に大学に入れることにした。日本語を勉強してみたいと思った。私は日本の文化に興味があったし、もちろん漫画の勉強ではないが、漫画の世界と関係があるのだと考えた。だから、元には、日本語の勉強を選んだのは漫画に近づく方法だからである。

日本語を勉強したことがなかったから、夏休みに一所懸命がんばって、自分で日本語を学びかけた。9月に授業が始まった。日本語が話せないのに、よくアニメなど見ていたから、ちょっと日本語の発音に慣れてみたいであった。日本語を習わなければ習うほど気に入った。文法も書き方も今まで学んだ外国語と全然違って、すごく面白いと思った。

で、日本語の勉強の動機であった漫画がだんだん勉強のための道具になった。高校のときから漫画に対する見方が少し変わったといえる。元にはただの趣味であったが、こういう簡単なレベルを超えて、やはり私の日本語の勉強の中心になった。マスターの論文にも漫画の世界と関係があるテーマにした。好きな漫画の日本語版を読むと、わからない言葉があっても、文脈があるから、絵のおかげでわかるようになる。そして、漢字なら、読み方が書いてあるので、よく覚えると思う。今でも私にとって漫画は日本語へのとびらだと考える。最近、漫画が好きだから、日本を勉強することにする学生が多くなると言える。それはいいことである。去年からリアルのある私立学校で漫画と日本語の授業を教えている。すごく面白くて、うちの生徒も漫画に興味深いですから、日本語を習いたいという。四年前の私の同じ考え方である。「漫画で日本語を勉強する」という学び方を広げたいと思うので、このプロジェクトに漫画について描かせてもらいたいのである。

対話報告

最初にこの対話レポートの相手の決定をもう少し詳しく説明したいと思う。2010年9月からリールにある学校で「Le japonais par les manga」という授業を教えている。一週間に一回の90分の授業である。生徒は全部で六人で、みんな中学校の四年生の女性である。この授業の内容は漫画と関係がある要素を使って日本語を学ぶことと漫画の描き方のことである。

対話相手をこの授業の二人の生徒にしたいである。理由をはっきり説明する。この生徒は5年前の私と大体一緒だと思う。彼女も漫画の大ファンで、漫画の影響を受けて日本語を勉強することにした。後で、私のように、漫画だけではなくて、絵にも興味があって、漫画っぽい絵を描きたいである。二人での会話より、三人で（私と二人の生徒）の会話をすることにした。選んだ生徒は二人とも漫画が好きなのであるが、日本語に対する経験は少し違う。ゾエさんという生徒はもう一年間ぐらい日本語と漫画の描き方を勉強した。アポリーヌさんは2011年9月から日本語と漫画を学びかけた。経験が違うので、うちのテーマに対して反応も意見も違うかもしれないと思って、三人での会話にした、きっと面白い会話ができる、うちのテーマについて意見をもらえそうである。この対話レポートで大切なところを三つ述べたいと思う。それは次のである：

- ・ 漫画の愛好
- ・ 漫画と絵の関係
- ・ 漫画と日本語の勉強の関係

・ 漫画の愛好

まず日本の漫画はなぜそんな人気があるか、もっと詳しく知りたいと思う。私には漫画の長所がいろいろある。フランスの漫画とぜんぜん違う。絵のスタイルはフランスのよりもっと詳しくて、美しいである。話もいろいろなジャンルがあるので、ぴったり合う漫画を簡単に見つけることができる。そして、ページと巻の量はもっと大きいから、話はもっと深いし、実際の目的があると思う。

私・まず聞きたいのは、初めて漫画を読んだのはいつでしたか？

アポリーヌさん・5年前かな・・・

私・じゃ、小学校のとき？

アポリーヌさん・小学校の後

私・じゃ、中学校のはじめですね。

アポリーヌさん・はい

ゾエさん・一緒

私・どの漫画でしたか？

アポリーヌさん・カードキャプターさくら

ゾエさん・フェアリーテイル

私・そのときに、すぐに気に入りましたか？

二人とも・はい

私・それはどうしてですか？

ゾエさん・えーと・・・

アポリーヌさん・絵はきれい過ぎるから

ゾエさん・うん、そうだね。

アポリーヌさん・ずっと白黒だから、なんかなれてるって感じ

ここまで感じたのは、私が「テーマの動機」の作文に書いておいたように、絵の役割はとても大切である。(2)でもうちょっと詳しく絵について会話をするつもりであるから、このときに深く研究しなかった。

私・日本の漫画はフランスの漫画とのどこが違うと思いますか？

2とも・・・・

私・フランスの漫画も読んでいますか。それとも漫画だけですか？

アポリーヌさん・私は日本の漫画だけ

ゾエさん・私は両方

私・じゃ、何が違いますか？

アポリーヌさん・絵のスタイルは違うよね

ゾエさん・話も結構違うよ。日本文化の影響があるから。

私・日本文化？

ゾエさん・まあ、西洋の影響もあるんだけど・・・

これはとても面白い意見である。ちょっとびっくりした。しかし、現代のグローバル化で国際文化が少しずつ混じるようになる。もしかしたら、この現象の影響で元々日本人のために漫画を描いている漫画家は作品に西洋的な要素を入れるようになったのか。深い問題であるが、可能かもしれない。もしも本当なら、フランスはなぜ日本の漫画がそんなに好きなのか、少し説明すると思う。日本文化の反映だけならフランス人に同化しにくいかもしれないが、もし西洋文化の要素もあれば、どうかは安くなるとこの会話で考えるようになった。

漫画と絵の関係

私的には漫画を「描かれてるもの」としてよく感じている。子供のころから絵を描くのが大好きなので、漫画を読むときに、絵の描き方を観察して、頭の中で分析して、後で自分の絵を描いているときに、役に立つ。このわけで、私にとって絵はとても大切である。うちの生徒の印象をこのテーマについて知りたいのである。

私・二人は絵を描くのが結構好きですよ。漫画を読むときに、絵を気にしていませんか？

ふたりとも・はい！

私・でも絵と話の間で、どちらが一番大切ですか？

アポリーヌさん・両方かなあ・・・

ゾエさん・でも絵も大切だよな・・・絵のスタイルは気に入らなかったら、読めないから。

アポリーヌさん・うーん、確かに・・・

私・じゃ、読むときに、絵を大切にしているという意味ですか？私の場合は、よく絵を観察するのですが、二人は？

アポリーヌさん・実は漫画を一度早く読む。そのときに話を気にしてるけど、後で、もう一度読んで、絵に集中する。

ゾエさん・私も。

私・本当？すごいです！

ゾエさん・好きな漫画なら何回も読めるよ。

アポリーヌさんもゾエさんも漫画の絵を大切にしている。思ったように、漫画はただの本ではなくて、作品である。漫画の魔力は絵とやはり関係があるといえる。

漫画と日本語の関係

私は日本語を勉強することにしたのはやはり漫画のおかげである。十年前はじめて漫画を読んで、だんだん漫画の影響を受けて、日本文化についてもっと知りたいようになった。漫画から日本語までいたったので、漫画を「日本語への扉」として認められるのである。この二人もこういう関係を感じているかどうか、知りたかった出ある。

私・日本語を学びたい理由は日本語と関係がありますか？

ゾエさん・うん。漫画で日本文化が見えて、すごく面白そうだから、日本語を勉強したいなあと思ってて・・・

私・じゃ、それは漫画を読むと、ちょっと日本の生活を味わうことができるって言う意味ですか？

ゾエさん・そうだ。日常の生活が見える。それはたとえば学校とか・・・それはすべての漫画じゃないけど・・・ファンタスティック系は違うよ。

私・そうですか？じゃ、日本のファンタスティック系の漫画は、もしもフランス人に作られたら、結果は一緒だということですか？

ゾエさん・うーん・・・

アポリーヌさん・そうしたら、結果は違うよ。

ゾエさん・確かに。

私・じゃ、ファンタスティック的な世界でも日本文化の要素もあるっていうことですよ。私もそう思う。それはたとえば・・・

ゾエさん・なるとのラーメン！（笑）

私・うん、そうです！少しでも日本文化の要素ですから、気になると思います。

後で、漫画の日本語版を読んだことがありますか。

ふたり・まだ

私・読んでみたいですか？日本語版を読むのはフランス語版を読むことと同じだと思いますか？

アポリーヌさん・同じだといいいね（笑）

ゾエさん・まあ、でも印象が少し違うかな・・・

私・私にとっては結構違います。日本語版にはキャラの性格によると話し方が違うし・・・フランスではそんなにたくさんの話し方がありませんね。これは日本語版を読むと、よく感じます。

うちの作文は元に翻訳の問題と関係がなかったが、この会話でこのテーマについても考えるようになった。私的には日本語版を直接読むのはもっと良いである。作家の伝えたい気持ちをうまく感じることができるのである。「こういう気持ちを感じたいから、日本語を勉強してみようかな」と考えている若者が多いと思う。このわけで、日本語の勉強に漫画を使うのはいいことだと私が考えている。

あとでもうひとつである。この会話でわかったのは漫画と日本語文化の関係はすごく狭いのである。日本を映す漫画ではなくても、漫画には日本文化の影響があるといえる。

私・最後に、あなたたちに漫画日本語を勉強することのいいところは何ですか？

アポリーヌさん・漫画が大好きだから、漫画と関係がある練習をしたら、集中しやすい。

ゾエさん・うん、そうだね。

私・もちろん漫画の日本語と教科書の日本語は結構違います。両方は大切だと思います。教科書で日本語の基本的なものを勉強することができますが、漫画の日本語はもっと自然だと思います。ですから、両方も役に立って、学んだほうがいいのかもしれません。

この会話をして、たくさんの意見をもらえて、楽しかったである。アポリーヌさんもゾエさんも漫画が大好きであるが、漫画に対しての関係はたぶん少し違う。ゾエさんはフランスの漫画も読んでいるし、日本語をもう一年間ぐらい勉強しましたから、漫画での日本語の勉強についてたくさんの意見をくれた。アポリーヌさんは漫画の大ファンで、漫画の長所をよく認める。

この会話でわかったのは教育学に対する漫画の役割である。生徒は教科書より漫画を楽しめるものとして認めるので、モチベーションが大切が自然になる。

そして、最初の作文に書いておいたように、漫画と日本文化の関係がすごく狭いである。このわけで、漫画は日本語の勉強のための道具だけではなくて、日本文化を映すものとして日本文化や日本のメンタリティをわかるための道具である。日本語を学ぶときに、こういうものも勉強したほうがいいので、日本語を勉強したいフランス人に漫画の影響はとてもいいことであると考える。

最後に、生徒との会話で気になったのは翻訳の問題である。フランス語版を読むと、翻訳があるから、テキストと直接の関係がないといえる。日本語版なら、漫画家の伝えたい気持ちを含めるテキストが読める。これの意識を持つてる生徒は作品を直接に読みたいようになる。これも漫画での日本語の勉強の魔力である。特に絵を大切にしている私が生徒と話しながらわかるようになった。

結論

このプロジェクトで漫画のことについていろいろ考えたり、書いたりした。最初にこのテーマの決定の理由を述べた。私はやはり漫画のおかげで日本語を勉強するようになったから、漫画を今でも大切にしている。そしてほかの学生の作文を読んで、ゾエさんとアポリーヌさんと一緒に会話をした。自分の状況はあの人と大体同じである気がした。みんな漫画が好きで、漫画の影響を受けて、だんだん日本文化についてもっと知りたいようになって、それで日本語を学ぶことにした。漫画から日本文化まで、そして日本文化から日本語までといえる。こういう経歴はとても面白いと思う。漫画はやはり勉強の世界に存在できるといいと考えていた。どんな形がいいか、よくわからないが、確かなのは、漫画を勉強のために使うことは長所があるということである。

しかし、みんな大体同じ動機であるが、違うのは漫画への見方からである。対話をしたときに、これを感じた。絵を描くのが好きな私は特に漫画の絵に集中しているが、アポリーヌさんには話も大切そうである。漫画の魔力に対してもよく考えた。私はなぜ漫画がそんなに好きなのか？もちろん絵も話も大切であるが、それほど、漫画と日本文化の関係も深いき、気に入った。漫画を読むと、少女漫画でもファンタスティック系の漫画でも日本っぽいものがたくさんあると感じる。私にとっては、漫画は日本の生活や日本のメンタリティーを映すものとして、日本文化のある部分として認められているものである。このプロジェクトで、この見方が見えた。

日本語を勉強するのは難しいので、漫画で日本語を学ぶのはもっと楽しくて、簡単になると思う。私もそう思っていて、生徒たちと一緒に会話をしたときに、生徒もそういていた。遊びに関する目的があれば、日本語の勉強にも一所懸命がんばるようになれる。日本語版の漫画を読むと、自然な日本語を読んだり、漢字を振り仮名で簡単に読んで覚えたりすることができる。私には役に立つ。でもゾエさんとアポリーヌさんには日本語版を読みたいのは特に漫画家の伝えたい気持ちを直接読みたいからである。両方にも便利であると思う。このわけで、将来にも、漫画で日本語を学ぶことについて考えて、こういう学び方を使いたいようになれるとうれしいです。私が漫画から日本語までいったと通り、ほかの人に漫画のすばらしさを見せてほしいのである。

終わりに

このプロジェクトでたくさんのことを習った。それはまず日本語であるテーマについて考えたり、ほかの人に自分の意見や印象を伝えたりすることである。日本語で自由なテーマについて書く機会が少ないから、とてもいい練習で、自分の勉強のためにいいことである。自分の研究をするときに、ほかの研究者たちの研究を分析するけど、「考えるための日本語」でやはり自分の考え方が中心になるので、以外で楽しかったである。

そしてプロジェクトの対話レポートのために、うちの授業の二人の生徒と漫画と日本語の勉強し方について話せた。生徒の意見や印象危機ながら、生徒の期待をもっと詳しくわかるようになって、次の授業の準備にとっても役に立つといえる。

最後に BBS でほかの学生たちとコメント交換するのもとてもいいことであると思う。普段には一年生、二年生と三年生たちとマスターの学生の間あまり交際がない。それはちょっと残念であるから、このプロジェクトで一緒に考えたり勉強したりのは楽しかったと思う。

「日本と私」

「生活を変えた熱中」

ドラネ・ダヴィッド

動機文

14歳ぐらいから、外国語、特に様々な文字に興味があります。なじみのない字体を解読できることがとても楽しいと思います。日本語を発見する前に、私は外国語の翻訳が好きになりました。面白いのは、分からない言葉を理解しやすくすることです。私は翻訳するとき、時々複雑だけど、できる限り元の文に対応して翻訳してみます。この挑戦は楽しいと思います。でも、ベルギーに住んで、中学校で教えられた外国語は英語とオランダ語ばかりだったから、日本語のことをあまり知りませんでした。2000年代の初めに、インターネットが現れて、私は世界の言語を発見できるようになりました。ある日、フランスの発売の前に遊べるように、日本語のビデオゲームをダウンロードして、日本語と最初の出会いが起きました。当時は日本語が全然分からなかったけど、せめてそのゲームのキャラクターの名前を読めるように、片仮名を勉強し始めました。インターネットで片仮名の発音を探して、私の日本語の勉強がその日に始めました。その後で平仮名も習って、日本語の本文や英語の言葉をカタカナに書き替えることがたちまちに上手になって、とても楽しかった。

同じころ、フランスで最初の漫画が現れました。私の初めの読んだ漫画はドラゴン・ボールですが、日本産のことが知りませんでした。もう一度インターネットのおかげで、漫画の起源を探して、日本の文化を見つけました。その時は日本が本当に熱中になりました。それからアニメを見て、日本語を聞いたのは初めてでした。ドラゴン・ボールやシティ・ハンターなどのアニメを見て、少しずつ日本語の発音と文法に慣れてきて、「日本語がとてもきれいで、耳に快い言語だ」と思いました。だから日本語の勉強を深めるように漢字を習い始めました。今も漢字の数と筆画の複雑さは西洋のアルファベットと比較してとても面白いと思います。それで日本語の字書と文法の本をたくさん買って、まじめに勉強して、日本語がだんだん分かるようになってきました。

子供のころから、旅行することが大好きで、一番の夢は世界の国を全部見物することです。だから私は日本語と日本の文化を発見してから、この目で見るために本当に日本へ行きたかった。2006年に、ベルギーの大学で情報科学の三年生でしたが、その勉強に飽きって、クラスの雰囲気の不愉快だったから、すっかり落ち込んでしまいました。2007の夏、元気を出せるために、母は私に日本への旅行を贈ってくれました。日本へ行く前に、まだ漫画の翻訳をしていました。もちろん完璧ではなかったのに、日本語が上達するために、いい経験だと思いました。日本から漫画の単行本を輸入して、フランス語に翻訳して、こうして日本語を勉強していました。そのうえ、日本の知ったことは漫画とアニメで見せたことだけでしたから、現実と同じかどうか分かりませんでした。正直に言って私の一番好きな漫画は「ワンピース」だから、海賊の世界と日本が完全に違うと分かりました。でも私の漫画の数は1000以上だから、舞台が現実の世界漫画も読んだことがありました。日本は私の最初のヨーロッパ外旅だったから、とてもうれしくてわくわくしていました。二週間の間に、広島から東京までいろいろな神社や町を見物して、とても感じのいい人と出会って、初めて日本語で話して、本当に並外れた旅行でした。その上、日本人に会って、とても親切な人だと思えるようになってきました。

たとえば、神社を見物してから、お土産を買いたかったです。土産物店のおばあさんがお釣りを渡して、私は「ありがとうございます」と言いたから、彼女は私にクッキーの箱を贈ってくれました。とても優しかったですね。日本にいた時、気分が本当によかったで、漫画との似ていることがよく分かりました。でもベルギーに帰って、またその情報科学の学業を続けると思うと寂しかったです。日本で、すごい所を見物して、グループの人と友達になって、休息でした。帰るとき、飛行機の窓から日本を見て、泣き出しました。日本への見方が期待されたよりさらによくて、毎日日本へ帰りたいです。団体の中に日本が好きな少女がいて、彼女は九月にリールで日本語を勉強する予定だと言いました。私の家の近くにそんな勉強ができることをしらなかったから、それを聞いてとてもすばらしいと思っていました。だからベルギーに帰ってから、将来についてよく考えました。つまらない情報科学の勉強を断念して、翌年はリール第三大学で日本語を勉強し始めました。ついに日本の熱中に没頭することができました。

それは三年前の話です。それ以来日本語の水準が著しく上げて、自分で漫画の翻訳を始めました。フランスで日本語を使う仕事を見つけるのは難しいことをよく知っていますが、日本の熱中を発見させた漫画の翻訳家になるのは子供の夢です。今私は何も後悔しなくて、いつも日本語の勉強を続けます。12年前、もしその日本語のビデオゲームをダウンロードしななかつたら、私は日本語を勉強しなくて、生活が完全に違うかもしれません。

対話報告

相手として選んだ人は母で、テーマを深めるように話しました。母を決めた理由は、私の一番近くて、すべてが言える親だからです。特に母のおかげで、日本へ行く夢が叶えられたので、私の生活の変化について話すために完璧な相手だと思いました。私が先に書いたとおり、2007年に情報科学に興味があまりなくなりました。どうしてその勉強を始めたとよく聞かれました。高校の後、何の勉強をしたいかわからなくて、パソコンを使うことが上手だったから、情報学を決めました。そのうえ、車を持っていなかったから、遠い大学に行くのは難しかったです。でも三年生の時、授業が複雑になって、他の学生と折り合いが悪くて、先生たちが嫌いだったから、その勉強をやめたくて、落ち込んでしまいました。当時、母に漫画とアニメをみせたことがあって、時々和食のレストランで食べることもあったから、私の影響を受けて母も日本に興味があるようになりました。ずっと以前から私は日本へ行きたかったから、母が「今年の夏日本へ行こう」と言いました。あの時まで、家族の旅行はヨーロッパの国だけで、アジアを見物する機会でした。旅行の間に母は私の感激と日本人と話せる私をみて、熱中がまじめがよく分かりました。だからベルギーに帰って、母は私が五年間がかかった情報科学の勉強をやめるのを許してくれました。でも日本語の勉強をする条件が私は試験に落ちないことでした。そうしなければ、日本語をあきらめてすぐに仕事を探さなければなりませんでした。

母：ビデオゲームのおかげで、日本語を勉強したくなったと言った。具体的にどう起こったのか。

私：実は1999年に最初の「ポケモン」ゲームがフランスで発売された。このゲームが全然知らなかったけど、広告を見て興味になった。ゲームを遊んでとても楽しいと思った。だから次のポケモンゲームが予告された時、ビデオゲームの雑誌を読んで、そのふたつ目のゲームが前のゲームよりさらに楽しいに気づいた。その新しいゲームを遊ぶことが本当にわくわくしていたけど、家にインターネットがまだなかったから、情報を探ることができなかった。しかし数ヶ月のあと、遂にインターネットを取り付けて、そのゲームを日本語で遊ぶ可能性をみつけた。ゲームの言葉は全部平仮名と片仮名で書いたから、全然分からなかったけど、あそぶことだけでも面白かった。でも雑誌にローマ字で書いたキャラクターの名前とゲームに仮名で書いた名前を比べて、自分で片仮名の発音が分かった。意味が全然分からなかったけど結局ゲームにつれて全部読めるようになった。その後インターネットを使って仮名を全部暗記した。あの時から日本語の勉強を始めた。

母：あなたは子供からいつもコードを解読することが好きだ。旅行の長い道のりを行って、父はコードや謎の本を買って、あなたはとても無言だった。外国語を読むことはほとんどコードと同じと思っているか。

私：はい、そう思う。両方は読めない字を読める字に変化することだとおもう。子供のとき、友達が分からない言葉を分かることが本当に楽しかった。でも当時に意味なら英語だけが少し分かった。

母：どうして日本語の勉強を深めたかった。

私：日本語を分かる前に漢字の勉強を始めた。器具の使用説明書や中華料理のレストランで見た中国の複雑な字とその数に気があって、魅惑された。私によると平仮名と片仮名のように、漢字がコードを解読することに似ていた。「ドラゴンボール」のおかげで漫画とアニメを発見して、まずエピソードのタイトルの翻訳を試した。そうして漢字をたくさん習って、読むことと書くことが易しくなった。

母：文字の練習は大学の一年生に役に立った。授業で文字を習うことがいらなかった。

私：日本語の発見から大学の入学まで10年間ぐらいが過ぎ去った。だから漫画と字書を使って文字だけではなく文法と語彙と発音も勉強時間がたっぷり十分だった。当時に漫画がフランスに躍進していたから、日本語の文法の本と字書が現れ始めた。特に「ニューネルソン」という辞書が一番役に立つ本だ。その字書を買ったとき、店にたった一つのネルソンがあって、その後二度と店で見ることがなかった。とにかく大学の一年生に、私が知らなかったものをあまり学ばなかった。

母：そう、日本語の本をたくさん買ったことをよく覚えている。私によるとそれは役に立たない出費で、少年の気まぐれだと思ったけど、今は私の考え方が完全に変わった。あなたの将来はその本しだいかもしれない。

私：五年間ぐらいの情報科学の学業をやめてどう感じたか。

母：一番大切なことは一生のしたい仕事をみつけると思う。私は看護婦として時々退屈で、他の仕事をしたいけど、今はもう遅すぎる。三十年間仕事をするために、その仕事が大好きではなければならぬと思う。だから情報科学が嫌いになったら、やめることはいい決定だ。

結論

その「考えるための日本語」のプロジェクトを書くために、初めに何を書くのかわかりませんでした。その後他の学生の考えを聞いたり、読んだりして、結局私がどう日本語を発見したこととどうして大学で日本語を勉強することの説明を決めました。私はそんなに長い考えについて書くことに全然慣れていないから、5000字の限界を突破することが本当に難しかったけど、そのプロジェクトに満足している。実は私の考えを深めるより日本語が上達するために記録しました。正直に言って、私としてはその経験について語る事が書面でも口頭でも初めです。そのうえ、もちろん日本語で書くことがフランス語より難しかったです。大学で小さい作文を書いたことがあります。そんなに長くて深いテーマについて書いたことはありませんでした。時間がたくさんかかりましたが、字書と文法の本を使って、自分の考えを伝えることができ、いい日本語の練習だったと思います。私の日本文化の発見と漫画の熱中を説明することがよくできたと思います。毎週書きながら、日本語の能力が少しずつ易しくなったと思います。初めに文を1つ書けるように、字書が必要だったけど、いま結論を書くことはほとんど直接です。BBSで日本人の学生と議論することも練習として有益でした。さまざまのもらったコメントは私の学業の理由を分からせました。他の学生の作文とその日本語の発見を読むことも面白かったです。作文をいくつも読んで、何人もの人が私と同じくビデオゲームや漫画のおかげで日本文化の興味をもたせたことがよく分かりました。一方、母との対話は私の状態と将来をはっきりさせる良い機会でした。相手を決めるときに誰を決めると考えましたが、母が日本への旅行を贈ってくれたから、早く選択されました。以前そんな対話をしたことがありませんが、プロジェクトのおかげでできたから、母も私のしたいことをよく分かりました。

終わりに

今から漫画の翻訳と漢字の勉強を続けるつもりです。最近から自分の少年漫画の創造を試してみています。私は描くことが下手なのに、最もよいシナリオを考えてみえています。将来難しいですが、できれば日本語を使う仕事を見つけることが夢です。でもフランスやベルギーではなければ、日本でフランス語や英語を使う仕事も面白い可能性だと思います。日本語だけではなく、他の国の言語にも興味があるから、将来私はたぶんもう1つの言語を勉強したいと思います。中国とスカンディナヴィアの言語に特に興味がありますが、それを習う時間がまだたくさんあります。それからハリウッドの映画とアメリカのドラマのおかげで英語が上手になったから、いつかアメリカの旅行もしたいと思います。夢を全部実現させるために人生は短すぎると思います。とにかく人生の一番大切なことは好きな学業をして、熱中で生計を立てるために頑張ることだと思います。



「選択の力」後書き

山本 冴里 (メンター)

選択の力。晴れ団体のタイトル。選択の力について、自分の場合を考える。意志的な選択を重ねてきたつもりが、いつのまにか思わぬ場所にいる自分。選択そのものは意志したものであっても、その選択の力は、いつのまにか自分自身を思いがけない場所にまで引きずっていく。

7年前に、はじめてフランスに行った。それは一つの意志した選択だった。当初は一年で帰るつもりだったけれど、結局はそれが四年になり、さらに家族形成という形で、人生にフランスが深く絡まる。そんなことはじめは、意図も想像もなかったのに。

今回のプロジェクトで、ひさしぶりにリールに来る機会が得られて、嬉しかったです。晴れ団体のみんなの選択とその力が、充実した人生に結びつきますように。

武藤 理恵 (メンター)

人は日々、数多くの選択をしながら生きている。私はこれまで何を選択し、今ここにいるのだろうか。どの選択にも、正解もなければ過ちもなく、選択は一つずつ、私を形作っている。晴れ団体は、それぞれがその選択をそれぞれの晴れへと導く力を見出す団体であった。身の回りの小さなきっかけから晴れを導く力こそ選択の力であることを、対話を重ね私は学んだように思う。これから、私たちはそれぞれどんな晴れへと選択を重ね生きていくのだろうか。

それぞれの晴れの形の詰まった冊子が出来上がることを、晴れ団体の一員として、心から嬉しく思う。本プロジェクトで対話を重ねた皆さんに、この場を借りてお礼申し上げたい。

コランティーン

「選択の力」という表現は日本語の勉強の選択にぴったりなのである。大学の専門の選択は将来の選択で、誰にもとても大切だといえる。私は高校を卒業した後で、日本語を勉強することにした。しかしそれははたまたまの選択ではない。理由がいろいろあるが、元にはやはり漫画の世界に関係があるので、日本語の専門にした。漫画のおかげで日本文化、そして日本語のすばらしさを少しずつ知るようになって、ありがたいである。大学を卒業した後で、日本語の教師になりたいくて、漫画を使いながら日本語を教えたいである。「力」というのは「この選択は間違いではない」から出てくるといえる。自分の選択に自信があるということである。そして漫画は日本文化の一部として日本語の勉強に役割があって、これも日本語に「力」だと考えている。将来に漫画から日本語までいたる人々が多くなれるといいである。

ダヴィッド

このプロジェクトについて話しながら、「選択の力」のタイトルができました。このタイトルは完全に私の日本語の経験と一致していると思います。高校生のとき、色々な言語を勉強したかったけど、漫画とビデオゲームのおかげで日本語を選択しました。その後、大学に入学してクラスメートに知り合って、将来の目的が決まりました。日本語の選択は出会いや仕事、今からの人生を全部決定しました。私によると、これが「選択の力」です。

サフィア

「考えるための日本語」のおかげで多いの事について書くことで、考えることができました後書き人生で重要な選択は日本語学習になりました。心から好きな事をすると充実した生活を送るはずだと思います。ずっと前から、多数の言語を話す人に賞賛を感じますから 自分の希望は二か国語を話す人になることでした。最近の日本語学の選択は昔からの夢を叶える力を持っていると思います。多分今の選択が、将来にも通じるだろう。人生を左右する選択の力である！

暁徳

「考えるための日本語」というプロジェクトのおかげで、特別なテーマについて考えました。特にどれか元始を選択する。そして、「どんな生活がりたいですか」という質問自分に聞きました。でも、今、私たちはまだ若いです。そして、将来のために準備しなければなりません。たくさん選択があります。チャンスです。でも、そのうちのひとつがあるところに先導していますが、他のが他のところに先導しています。だから、選択する時に、生活が絶対に変わりますから、だから言うことができます。選択が強い力があります。もし、そのプロジェクトをしなかったら、私の今レベルがありません。それで、皆を感謝したいです。



早稲田大学・リール第三大学

「考えるための日本語」

選択の力

2012年01月23日～2012年03月11日

筆者

ムクタシッド サフィア

スズキ アキノリ

シス コランティーマ

ドラネ ダヴィッド

早稲田大学のメンター

山本冴里

武藤理恵

